

令和 2年度

事務事業評価表 (令和元年度 の実績評価)

記入年月日
令和 2 年 4 月 1 日

事務事業名		採石場土砂流失災害補償事業				事業区分		担当	
						新規/継続	継続	事務事業No.	040203000546
						単独/補助	単独		
政策体系上の位置付け								所属課	050301
政策体系	総合計画の施策名	0402		商工業の振興				課長名	商工観光課
	政策名	04		活力ある産業のまちづくり					
	施策名	02		商工業の振興				グループ	商工観光グループ
	手段名	03		石材業の振興				担当者名	
財務会計上の位置付け						事業期間			
予算科目	会計	款	項	目	事業	細	一般会計		
	01	07	01	02	01	00	商工振興事業		
法令根拠	桜川市災害補償基金管理規則								
[Do] 1. 事務事業の現状把握 (その1)									

(1) 事務事業の概要	
手段	①事務事業の概要 (事務事業の全体像)
	桜川市真壁町の指定河川地域において、土石等採取事業活動により発生した災害防止・救済を行うため実施する事業。
	②担当者が行う業務の内容・やり方・手順
	<ul style="list-style-type: none"> 指定河川の堰堤における災害防止措置として年1回の土砂の浚渫 災害補償基金管理委員会の開催 (年1回) 出席委員への報酬の支払い 土地借上料の支払い (3筆4万円)

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移							
①手段 (担当者の活動内容)	④活動指標 (活動量を表す指標)	単位	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度
			(実績)	(実績)	(計画)	(目標)	(目標)
<ul style="list-style-type: none"> 指定河川の堰堤における災害防止措置として年1回の土砂の浚渫 災害補償基金管理委員会の開催 (年1回) 出席委員への報酬の支払い 土地借上料の支払い (3筆4万円) 	委員会開催数	回	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
②対象 (誰、何を対象にしているのか)	⑤対象指標 (対象の大きさを表す指標)	単位	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度
指定河川流域	指定河川流域の世帯数(白井・長岡・下小幡・上小幡)	件	724.00	724.00	724.00	724.00	724.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
③意図 (この事業によって対象をどう変えるのか)	⑥成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)	単位	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度
指定河川流域にて起こりうる災害の防止及び災害発生時の対策	浚渫実施回数	回	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

(3) 投入量 (事業費) の推移		30年度	01年度	02年度	期間限定 総投入量	
		(実績)	(実績)	(計画)		
投入量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0
		使用料・手数料	千円	0	0	0
		その他	千円	0	0	0
		一般財源	千円	342	342	342
	事業費計(A)	千円	342	342	342	
	正規職員従事人数	人	2.00人	1.00人	1.00人	

事業費の内訳	01年度事業費 実績 (千円)		02年度事業費 予算 (千円)	
	01 報酬	42	01 報酬	42
	22 補償補填及び賠償金	300	22 補償補填及び賠償金	300
	合計	342	合計	342

事務事業名	採石場土砂流出災害補償事業	事務事業No.	40203000546	所属課	商工観光課
(4) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？ 昭和50年に旧真壁町で開始された。桜川市真壁町の指定河川地域において、土石等採取事業活動により発生した災害防止・救済を行なうため実施する事業である。昭和61年から流域農家への休耕補償を行っていたが平成18年度で廃止し、当時基金に余裕があったため積立ても停止した。平成25年度委員会において県へ浚渫を要望することとなったが、砂防ダムだったことが判明し県で浚渫できないこととなった。平成26年度の委員会では、今後県へ区と市とで源十郎川上流の河川改修を要望することが決定した。					
(5) この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者）からどんな意見や要望が寄せられているか？ 浚渫を繰り返すだけではいつまでも砂が流出し続けるだけで解決しないので、県へ河川改修を要望していくべきという委員からの意見がある。					

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評価項目	
改革改善を行う	①政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？) <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている 地場産業である石材業者の事業に起因し、河川流域の住民の生活に係ることから、石材業者及び市民の保護に結びついている。
	②公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？) (法定受託事業はその名称) <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある 岩瀬地区の採石業者に関する場所では当事業のような基金は存在せず、行政としての関わり方には再検討の余地はある。
	③成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？) <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない 浚渫を行うことで現状を維持している状況であり、向上の余地はない。
	④廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？) <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 浚渫の廃止について協議したが、委員から災害が起こる可能性が指摘されている。
有効性	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性がありますか？(市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合) <input checked="" type="checkbox"/> 具体的な手段、事務事業名 県・市単独事業 <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合ができる 浚渫は引き続き行いが、大規模な災害が発生した場合は市が対応することになる。
	⑥事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか？やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか？) <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない 浚渫を行い現状維持している状況であり、削減の余地はない
効率性	
公平性	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？) <input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である 地域住民の生活を補償する必要があり公正である。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性 (次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり		(2) 全体総括(振り返り、反省点) 災害補償基金条例の改正を行い、基金を300万円に変更した。年に1回開催していた災害補償基金管理委員会を災害のあったときに開催するよう内容に変更した。																								
(3) 今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止		(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">成果</th> <th rowspan="2">向上 維持 低下</th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		成果	向上 維持 低下	コスト			削減	維持	増加				○											
成果	向上 維持 低下	コスト																								
		削減	維持	増加																						
			○																							
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策 定期的に土砂の浚渫を行う。		(6) 事務事業優先度評価結果 成果優先度評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 9																								

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価		(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合)	
課長確認後の評価 <input checked="" type="checkbox"/> B A: 継続 (現状維持) C: 終了、廃止、休止 B: 継続 (改革改善を行う) D: 2次評価へ提出		確認欄 <input type="checkbox"/>	